

## 論文要旨

氏名	深堀 真司
タイトル (日英併記)	Implant-supported fixed prosthesis improves nutrient intake in patients with partial edentulous posterior regions (インプラント支持固定性補綴装置による治療介入が臼歯部部分欠損患者の栄養摂取量を改善する)
<p><b>論文の要旨</b> (日本語で記載)</p> <p>適切な食物や栄養素の摂取は、健康状態の維持に不可欠である。栄養状態の悪化はフレイルに関連しており、果物や野菜などの栄養摂取量の減少は高血圧や心血管疾患、癌といった全身疾患のリスクを高めると言われている。インプラントは、歯の喪失を補うための確立された治療法であり、最大咬合力および咀嚼能力を高めるとされる。しかし、インプラント支持固定性補綴装置による治療介入が食物や栄養素の摂取に与える影響は不明である。そこで本研究では、臼歯部部分欠損症例において、インプラント支持固定性補綴装置による治療介入が摂取食物や摂取栄養素に及ぼす影響を明らかにすることを目的とした。</p> <p>対象者は九州歯科大学附属病院および6つの関連する歯科医院を受診した、臼歯欠損部にインプラント治療を行う予定の者、30名(平均年齢<math>59.8 \pm 9.2</math>歳)とした。除外基準は以下の通りである: (1) コントロール不能な全身性疾患を有する者 (2) 部分床義歯を着用している者 (3) 本研究期間中にインプラント治療以外の歯科治療を受けた者。なお、本研究は九州歯科大学研究倫理委員会の承認を得て行った(承認番号:17-9)。インプラント治療を受けた対象者に対して、brief-type self-administered diet history questionnaire (BDHQ)にて摂取食物および摂取栄養素を評価した。評価は2回行い、1回目は上部構造装</p> <p>着前に(ベースライン)、2回目は最終上部構造装着から1か月以上経過した後(治療後)に行った。統計学的解析にはWilcoxon signed-rank testを用い、<math>p &lt; 0.05</math>を有意とした。</p> <p>対象者は、遊離端欠損患者が17名、中間欠損患者が10名、そして遊離端欠損と中間欠損の両方を有する患者が3名であった。インプラントの埋入本数は1本埋入が6名、2本埋入が17名、3本埋入が4名、4本埋入が2名、6本埋入が1名であった。埋入部位に関しては、第一小臼歯部が11本、第二小臼歯部が15本、第一大臼歯部が28本、第二大臼歯部が12本であった。摂取食物について解析したところ、ベースラインと比較して治療後において野菜類(<math>p=0.043</math>)、豆類(<math>p=0.037</math>)の摂取量が有意に増加した。また、きのこ類(<math>p=0.123</math>)が統計学的に有意ではないものの、増加傾向を示した。野菜摂取の詳細に関して解析したところ、ニンジンおよびカボチャ(<math>p=0.006</math>)が有意な増加を示した。また、キャベツ(<math>p=0.098</math>)が統計学的に有意ではないものの、増加傾向を示した。摂取栄養素に関して解析したところ、ベースラインと比較して治療後において、総食物繊維(<math>p=0.008</math>)、植物性タンパク質(<math>p=0.008</math>)、<math>\alpha</math>カロテン(<math>p=0.032</math>)、ダイゼイン(<math>p=0.009</math>)、ゲニステイン(<math>p=0.009</math>)の摂取量が有意に増加した。一方で、総エネルギー(<math>p=0.629</math>)や、脂質(<math>p=0.530</math>)、炭水化物(<math>p=0.339</math>)といった主要栄養素、ビタミン類、ミネラル類の摂取量は、治療前後で有意な変化は認められなかった。</p> <p>本研究より、臼歯部部分欠損症例においてインプラント支持固定性補綴装置による治療介入が摂取する食物に影響すること、とくに野菜類、豆類の摂取量を増加させ、その結果として摂取栄養素を変化させることが明らかとなった。今回摂取が増加した栄養素である植物性タンパク質、食物繊維、<math>\alpha</math>カロテン、ダイゼイン、ゲニステインは健康状態を改善する多くの機能を有するため、臼歯欠損部にインプラント支持固定性補綴装置で治療介入することにより、全身状態の改善に寄与する可能性が示唆された。</p>	